

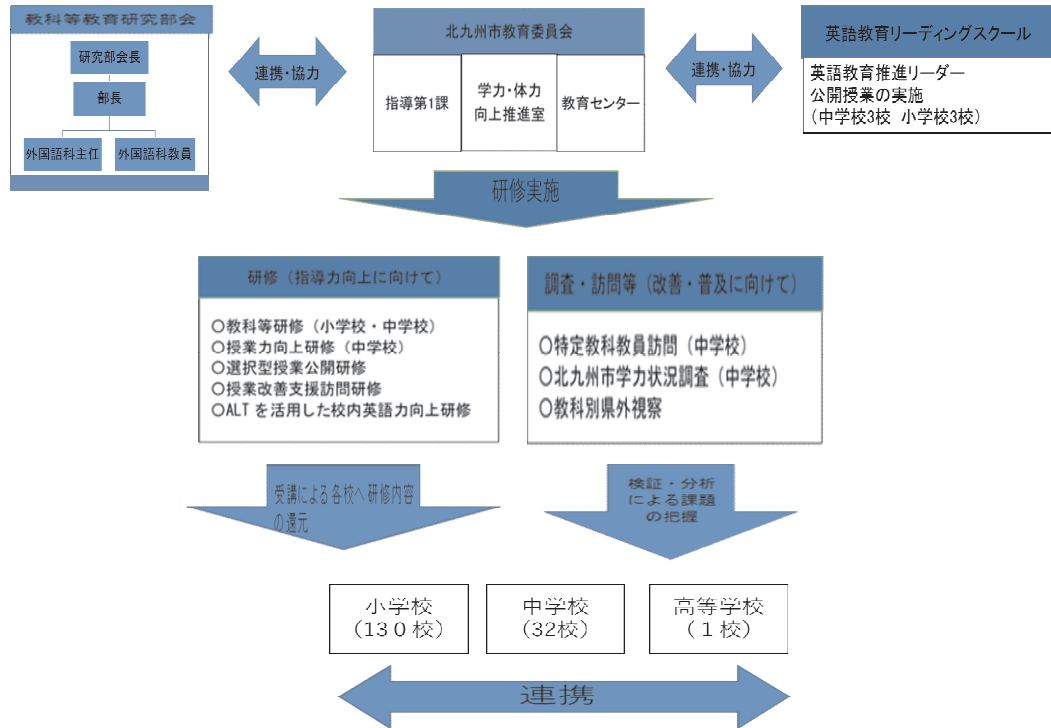
# 福岡県／北九州市英語教育改善プラン

## 実施内容

### (1) 研修体制の概要

下の図に示すとおり、各校種における研修会、その趣旨を踏まえ、研修を深めていく。また、事務局等学校間の連携を通し、各研修内容の充実を図る。

z



### (2) 英語教育の状況を踏まえた目標管理

#### 【中学校】

#### ○ 生徒の英語力

公立中学校の第3学年に所属している生徒のうち、求められる英語力の指標である CEFR A1 レベル相当以上を取得又は相当の英語力を有する生徒の割合は 48.6%（令和元年 12 月 1 日現在）で、前年度より 1.1% 上回っている。

#### ○ 教師の英語力

全英語担当教員のうち求められている英語力を有する英語教員の割合は 39.7%（令和元年 12 月 1 日現在）で、前年度より 11.8% 上回っている。

#### <課題>

○ 公立中学校第3学年のうち、求められる英語を有する生徒の割合は 48.6% で、指標の 50% に達していないこと。

○ 英語担当教員のうち求められる英語力を所有する教員の割合は 39.7% で、全国平均を下回っていること。

こうした状況を踏まえ、令和2年度の到達目標を次のように設定し、目標達成に向けて取組を行う。

<令和元年度 現状値及び2022年度までの目標値>

● 中学校

	指標内容	2018		2019		2020	2021	2022
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	目標値	目標値
①	求められる英語力を有する英語担当教員の割合(%)	35	27.9	40	39.7	45	45	50
②	求められる英語力を有する生徒の割合(%)	50	47.5	50	48.6	50	50	50
③	学習到達目標の整備状況 設定(%)	70	61.2	70	51.6	70	70	70
	公表(%)	10	4.8	10	4.8	20	40	50
	達成状況の把握(%)	50	33.8	50	29	50	50	50
④	生徒の授業における英語による言語活動時間の割合(%)	60	58.7	70	62	75	80	85
⑤	パフォーマンステストの実施状況 (スピーキング・ライティング両方)	80	75	85	80	85	85	90
⑥	英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	60	54.5	70	62.2	75	80	85

● 小学校

	指標内容	2018		2019		2020	2021	2022
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	目標値	目標値
①	学習到達目標の整備状況 設定(%)					未定	未定	未定
	公表(%)					未定	未定	未定
	達成状況の把握(%)					未定	未定	未定
②	小学校教員に対する研修実施回数	13	13	14	13	8	7	7
③	研修受講者数	1120	1131	1150	748	305	200	225

目標値達成に向けた具体的な手立ては、次の通りである。

1. 「教員の英語力向上」

- (1) 夏季休業日において、英語力向上研修、ALT活用研修を実施し、英語力をさらに向上させることの必要性を認識させる。
- (2) ALTを配置している期間に、1ヶ月1回50分程度、校内における英語力向上研修を実施する。
- (3) 英検等の外部検定試験の受験を促し、令和2年度達成目標(45%)を目指す。

2. 「生徒の英語力向上」

- (1) 中学校外国語科教員授業力向上研修をはじめ選択型公開授業研修会等で、本市の授業における指導の重点に基づいた研修を行い、教師の指導力を図ることで、生徒の英語力を向上させる。
- (2) また生徒が英語で話す機会の確保のため、国際交流と英語力向上を目指したイベントの実施や、スピーチコンテストも実施する。
- (3) 生徒の自らの英語力の到達度を把握させるために「CAN-DOリスト」の活用を推進するとともに、英検等の外部検定試験の受験を総合的に支援し、令和2年度の達成目標(50%)を目指す。

3. 「CAN-DOリストの活用」

- (1) 中学校外国語科教員授業力向上研修をはじめ選択型公開授業研修会等で、「CAN-DOリスト」形式の学習到達目標の公表の意義等について研修する。
- (2) 小学校外国語の教科化に伴い、学習到達目標を踏まえた授業づくりの重要性について、研修等において理解を深めていけるよう周知していく。作成にあたっては、英語教育リーディング

スクールの作成した学習到達目標を参考にすよう指導する。

4. 「生徒の英語による言語活動時間の割合」
  - (1) 選択型公開授業研修会、授業改善支援訪問、特定教科教員訪問等において、「北九州スタンダード」を活用する。
  - (2) 特に本時の目標及び単元目標の達成に向けた系統的・段階的な言語活動の設定を徹底することにより、令和2年度の達成目標（75%）を目指す。
5. 「パフォーマンステストの実施状況」
  - (1) 研究指定校等によるパフォーマンステストとその評価基準の事例の情報収集を行い、せんせいチャンネル等を活用して、好事例の普及を図る。
6. 「英語教員の英語使用状況」
  - (1) 中学校外国語科教員授業力向上研修をはじめ選択型公開授業研修会等で、授業力・英語力の向上を図り、より効果的な英語使用を推進する。
  - (2) 「英語教育実施状況調査」を実施することで、教員の英語指導力を含めて年次ごとの変容を把握していく。
  - (3) 「北九州スタンダード」を踏まえた授業の徹底を図り、集合型研修、訪問型研修等複数回チェックの機会を設けて向上を目指すと同時に、達成状況を把握して、検証する。
  - (4) 生徒の英語力については、各学校で、外部検定（英検 I B A）を活用した目標設定を行い、PDCAサイクルによる取組により目標達成を目指す。
7. 「小学校英語専科加配の活用」
  - (1) 求められる英語力を有する教師を確保するために、平成30年度実施の教員採用試験から、「英語有資格者の特例」として、本市が定める一定の英語力をもつ受験者について、一次試験においては「英語リスニングテスト」及び「英語に関する試験」、第二次試験においては「英会話実技」を免除するなどの取組を行っている。  
今後も5年後を見据え、本市が定める一定の英語力について、段階的にその要件を引き上げていく。

### （3）研修の体系と内容の具体

#### 【小学校】

1. 集合型研修
  - (1) 専門研修（教科等研修 B〔授業づくり編〕）  
期間：1日  
対象：悉皆年次研修対象者、希望者  
内容：授業づくり動画授業者実践発表、指導案作成等、英語教育推進リーダー等を研修サポーターで活用
  - (2) 専門研修（教科等研修〔理論編〕）  
期間：半日  
対象：悉皆年次研修対象者、希望者  
内容：教科調査官、大学教授等講話形式
  - (3) 選択型授業公開  
期間：半日  
対象：希望者  
内容：授業参観と協議会、指導主事講話
  - (4) 英語教育リーディングスクール（研究協力校）における実践および公開授業  
期間：年1回程度  
対象：希望者、外国語主任

内容：P D C Aサイクルによる実践から、児童が外国語に慣れ親しみ、既習内容の定着を目指した研究を行い、その実践の成果を授業の中に反映させ、参加者へ啓発する。

(5) 小学校英語専科加配についての研修

期間：年5回程度（令和2年3月、7月、10月、12月、令和3年2月実施予定）

対象：小学校英語加配専科教員

内容：小学校外国語の教科化を踏まえた指導方法の具体等について指導する。また、授業を公開して相互に見合い、言語活動の充実を目指した授業改善に向け協議する。

【中学校】

1. 集合型研修

(1) 専門研修（教科等研修A〔授業づくり編〕）

期間：1日

対象：悉皆年次研修対象者、希望者

内容：授業づくり動画授業者実践発表、指導案作成等

(2) 専門研修（教科等研修〔理論編〕）

期間：半日

対象：希望者

内容：教科調査官、大学教授等講話形式

(3) 選択型授業公開

期間：半日

対象：希望者

内容：授業参観と協議会、講話

(4) 英語教育リーディングスクール（研究協力校）における実践および公開授業

期間：年1回程度

対象：希望者

内容：P D C Aサイクルによる実践から、生徒の英語力向上を目指した指導方法の研究を成果と課題を分析し検証すると同時に、英語教育推進リーダーを授業者に公開授業においてはその実践の成果を授業の中に反映させ、参加者へ啓発する。

2. 訪問型研修

(1) 授業改善支援訪問

期間：通年希望日

対象：希望者、希望学校

内容：授業参観と協議会、講話

(2) 特定教科教員訪問

期間：每学期1回

3. 自主研修

(1) 北九州中学校英語教育研究会主催

期間：年間数回程度

対象：希望者

内容：講話、英語教育推進リーダーによる実践発表等

